埼玉県立小川高等学校　地域との協働による高等学校教育改革推進事業　研究開発の概要

「おがわ学の構築・実践」 ー学校と地域の未来を創ろう！プロジェクトー

育成される地域人材像

1

夢や志、豊かな心を持ちつつ社会の激しい変化に対応して主体的に社会に関わり、未来に向けて新たな価値を創造する力

2

幅広い知識と教養、豊かな情緒と道徳心、健やかな体、伝統や文化や我が国と郷土を愛する態度

3

子供たちだけではなく大人も学びを通じて可能性を最大限に伸ばし、一人一人が生涯にわたって活躍できる力

おがわ学

小川町に関する資料

歴史、偉人、文化、伝統、産業、観光、基本データ（人口等）などをまとめた資料を各教科で活用

【学びの例】
〇国語（古典）
「奥の細道」について、町内に7つある松尾芭蕉の碑をめぐり、芭蕉の足跡をたどることにより学習内容を深め、定着させる。
〇家庭科
町の郷土料理についてフィールドワークを通して調査し、地域の人々の生活や産物を知り、地域との絆を強める。

地域を窓にして見えるグローバルな課題

地域の資源からグローバルな視点や世界規模の課題を導き出す

【学びの例】
〇社会（現代社会）
・世界無形文化遺産である細川紙について学ぶと共に、国連・ユネスコの役割や体制、世界遺産について学ぶ。
・自然由来の原料でできている和紙の活用がどのように環境問題に貢献できるか課題と解決策を導き出す。

探究的な学習過程における学習内容

地域課題を情報収集し、整理・分析を行い、学びの成果の発表や、施策について首長への提言を行うなど、発信していく

【学びの例】
・地域へアンケート調査を行い、情報収集
・グラフやマップで情報を整理・分析
・地域の方に学びの成果を発表
・フォーラムで自分の意見の発表を行うとともに、課題解決の施策を小川町長へ提言

生徒の学びを導くワークシート

左記のことを複合的につなぎ、課題解決や将来の展望を描くための指導に結び付ける

【例】
・発達段階に応じた探究的な学び（課題を設定し必要な情報を取り出し収集・整理・分析して思考、気づきや発見、自分の考えを判断し表現する）を導くワークシートを作成。

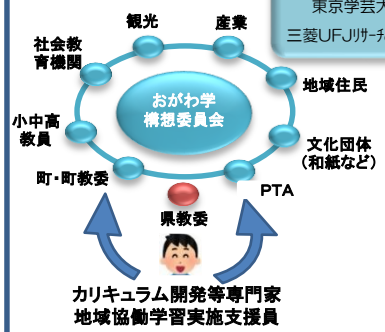
人材バンク

「おがわ学」を構築・実践し、支え、育てる地域の組織や人材のデータを蓄積し、外部人材を活用した授業を実践

【例】
・各専門分野や特技など詳細な内容を記載した外部人材の名簿を作成。
・名簿を活用した公開授業やフィールドワークを実施。

おがわ学の構築

構想委員会（コンソーシアム）



オブザーバー
東京学芸大学大学院
三菱UFJリサーチ&コンサルティング（株）

分科会が調査・検討を行い、構想委員会で決定

大人自身が学び、メンバーの知識レベルを整える
〇小川の個性について（文化・歴史・産業等）　〇地域と連携した学びについて効果を知る　〇探究的な学びの手法　〇教育課程への理解と組み込み

おがわ学の指導案等作成
〇おがわ学に載せる事項の検討　〇授業への組込の検討　〇探究的な学びの効果的な手法の検討　〇発達段階に応じた割振検討　〇おがわ学の先行実施

地域の大人の学び

「おがわ学」構築に関わる大人自身も改めて地域を学び、地域の良さを再認識するとともに、地域への愛着を深める。

地域を支える人材を育成し、地域の活性化へ

おがわ学の実践

発達段階に応じた学び

地域への理解を深め、地域への愛着や誇りを育むとともに地域課題を解決する能力を体系的に学ぶ

小学校
テーマ
●小川の素晴らしさに触れる
●小川を知る

中学校
テーマ
●地域の人と交流し、小川に参画する

高校
テーマ
●小川の課題を解決する

カリキュラムの構想例

1年	2年	3年
英語表現Ⅰ 地域の観光企業と協働し、外国人観光客に対する分かりやすい観光マップやパンフレットの作成に挑戦する	**物理基礎** 小川町の産業・企業との連携で、生産している製品・性能に関するデータを用いて身近な事例から物理学の基礎を学ぶ	**総合的な探究の時間** 地域の文化団体と連携し、小川町の伝統文化である細川紙の成形技術を学び、細川紙の活用の可能性を探る
数学Ⅰ 地元酒造会社と協働し、価格・売上・月の平均気温と顧客数等の関係性を調査し、適切な出荷量を導き出す	**家庭基礎** 郷土料理について、有機農業農家やNPO法人と連携し、地域の人々の生活や産物についてフィールドワークを行い、地域との絆を深める	**総合的な探究の時間** 町内各地の史跡について、フィールドワークを通して地域の歴史を学び、文献やインタビューからの学びを研究
現代社会 世界無形文化遺産である細川紙から国連の役割や体制を学び、どのように地域の環境問題に貢献できるかを探究する	**古典B** 町内に点在する万葉の歌碑をめぐり、万葉集注釈と照合しながら和歌の意味や背景を調べる	**選択科目（保育）** 町内の保育園と連携し、乳児から幼児期までの成長について実際の幼児と触れ合いながら学び、保育園内で発表会を開催

将来のビジョン

・地域への愛着や誇りを育む。
・多様な人々と協働しながら課題の解決に取り組むことができる力を身に付ける。
・自分たちが地域にどのように貢献していくことができるかを探究。

小川町にUターン・定住し、地域を分厚く支える

ふりがな	さいたまけんきょういくいいんかい	ふりがな	さいたまけんりつおがわこうとうがっこう
管理機関名	埼玉県教育委員会	学校名	埼玉県立小川高等学校

２０１９年度　地域との協働による高等学校教育改革推進事業　実施体制の概要

１　管理機関・学校の概要

（１）管理機関名、代表者名

管理機関名：埼玉県教育委員会
代 表 者 名：教育長　小松弥生

（２）学校名、校長名、研究を実施する学科

学校名：埼玉県立小川高等学校　　**学科**：☑**普通科**　☐**専門学科**　☐**総合学科**
校長名：韮塚　雄一

２　取組内容

この取組では、県立小川高校が小川町と連携して新たに「おがわ学」を構築し、町内の小学校（６校）、中学校（３校）と小川高校で「おがわ学」を活用しながら児童生徒の発達段階に応じた探究活動を積み上げていきます。小川高校では、子供たちが地域の教育資源を活用して主体的に考える力を育む教育課程を研究開発します。「おがわ学」は、子供たちが小川町の文化や歴史、産業等について知ることから始め、各教科と関連付けた探究的で協調的な学びへと段階的に深めていき、地域活動への参画など、子供たちに地域との関わりを促すものです。

①埼玉県教育行政の方向性

本県では、平成３１年度を始期とする「第３期埼玉県教育振興基本計画」の基本理念を「豊かな学びで未来を拓く埼玉教育」とし、下記の視点に重点を置き社会の持続的な発展を支える人材を育てていくことを宣言しています。「おがわ学」は基本理念を具現化するための事業の１つとして立ち上げました。

・未来を生きる力をはぐくむ
　社会の変化に対応し主体的に考え行動し未来に向けて新しい価値を創造する力を育む。
・多様な人々との絆を深める。
　人々との関わりを通して道徳心や公共心、他者との連携・協働する力をはぐくむとともに、地域が人を育て人が地域を作る好循環を生み出す。
・生涯の学びと活躍を支える
　学びを通じ全ての人々の可能性を伸ばし一人一人が生涯に渡り活躍できる社会を目指す

②本県のこれまでの取組

変化の激しい社会の中で生き抜いていく人材を育成するため、本県では今まで、「協調学習」（一人ひとりが主体となって答えを作り、対話を通じて自分の考えを見直したり広げたりしながらよりよい答えを創る学び）などを推進してきました。また、「学校応援団」や「放課後子供教室」など、学校・家庭・地域などが相互に連携・協働し、地域自身が子供たちの学びを支える取組を充実・発展させてきました。

これまでの取り組みなどを踏まえ、平成３０年度より地域の人的・物的資源を活用した実社会からの学びの充実と、学校の力を地域で活かす取組「学校地域 WIN-WIN プロジェクト」を展開しています。年間を通し地域の様々な方と連携し、生徒の多様な学びを支える実践研究や、企業などによる教育プログラムの提供を受け学校と企業などをつなぐ取組、全県にこれら取組の効果を知らせるフォーラムなどを実施しています。

③埼玉県の地域の状況

本県は今後、異次元の高齢化、人口減少など経験したことのない局面を迎えます。首都に隣接した人口集中地域で今後も人口流入が期待できる地域と、人口の減少が始まっている自然豊かな中山間地域があり、各地域の課題は多様であり、それぞれの特性や現状を踏まえ地域活力を維持していくことが急務です。県立高等学校は、１３９校、５１市町に在し、PTA、卒業生、地域の

様々な方々に支えられています。

④「おがわ学の構築・実践」学校と地域の未来を創ろうプロジェクト

○「おがわ学」構想委員会（コンソーシアム）の設置

・「おがわ学」の内容

「おがわ学」は、小川町の小中学校、県立小川高等学校の児童生徒が小川町の文化や歴史、産業等について知ることから始め、各教科と関連付けた探究的で協調的な学びへと段階的に深めていきながら地域活動への参画や地域課題の解決に取り組む態度を育むものです。そして、子供たち自身が、小川町に対して愛着や誇りをより強く持ち、将来小川町を含む地域に深く関わり積極的に課題解決に取り組む人材を育成することを目指します。

・スケジュール

２０２０年度の前半までの１年半をかけて「おがわ学」を構築、２０２０年度後半から２０２１年度までに模範授業や指導案の作成を経て実践に取り組む。

・対象

小川町立小中学校の児童生徒及び埼玉県立小川高等学校の生徒

○「おがわ学」の効果的な実施

・小中学校、高等学校の総合的な探究（学習）の時間や関連する教科・科目等で活用

・知識として学ぶことから、体験・交流、探究的な学び（町の課題解決）へと段階的に学習

・小中高で、児童生徒及び教員の交流（授業参観、成果発表、指導法に係る研究協議、等）

・地域との連携（町役場との連携、伝統文化の継承、町民への学習成果発表や交流会、等）

○その他

「おがわ学」の構想では、町民との交流や伝統文化の継承など、教科を超えた「地域再発見型」の学習や小学校から高校まで段階的かつ連続した「地域課題解決型」の学習を重視する。

さらに、今後の地域学校協働活動の在り方や生涯にわたって一人一人が活躍するという社会教育法の理念具現化のモデルとすることを目指す。

３　管理・運営方法

（１）高等学校と地域との協働によるコンソーシアム体制

機関名	機関の代表者名
埼玉県教育委員会	教育長　小松　弥生
小川町	町長　　松本　恒夫
小川町教育委員会	教育長　小林　和夫
埼玉県立小川高等学校	校長　　韮塚　雄一
ホンダ、松岡醸造（町商工会会長） *有機農業生産グループ・・産業界* *細川紙技術者協会・・文化* *東武トップツアーズ・・観光*	
※東京学芸大学	
※三菱 UFJ リサーチ＆コンサルティング株式会社	

斜体部分については小川町予算、※はオブザーバーとして参画

（２）将来の地域ビジョン・求める人材像等の共有方法

ア　夢や志、豊かな心を持ちつつ社会の激しい変化に対応して、主体的に社会に関わり、未来に向けて新たな価値を創造できる力

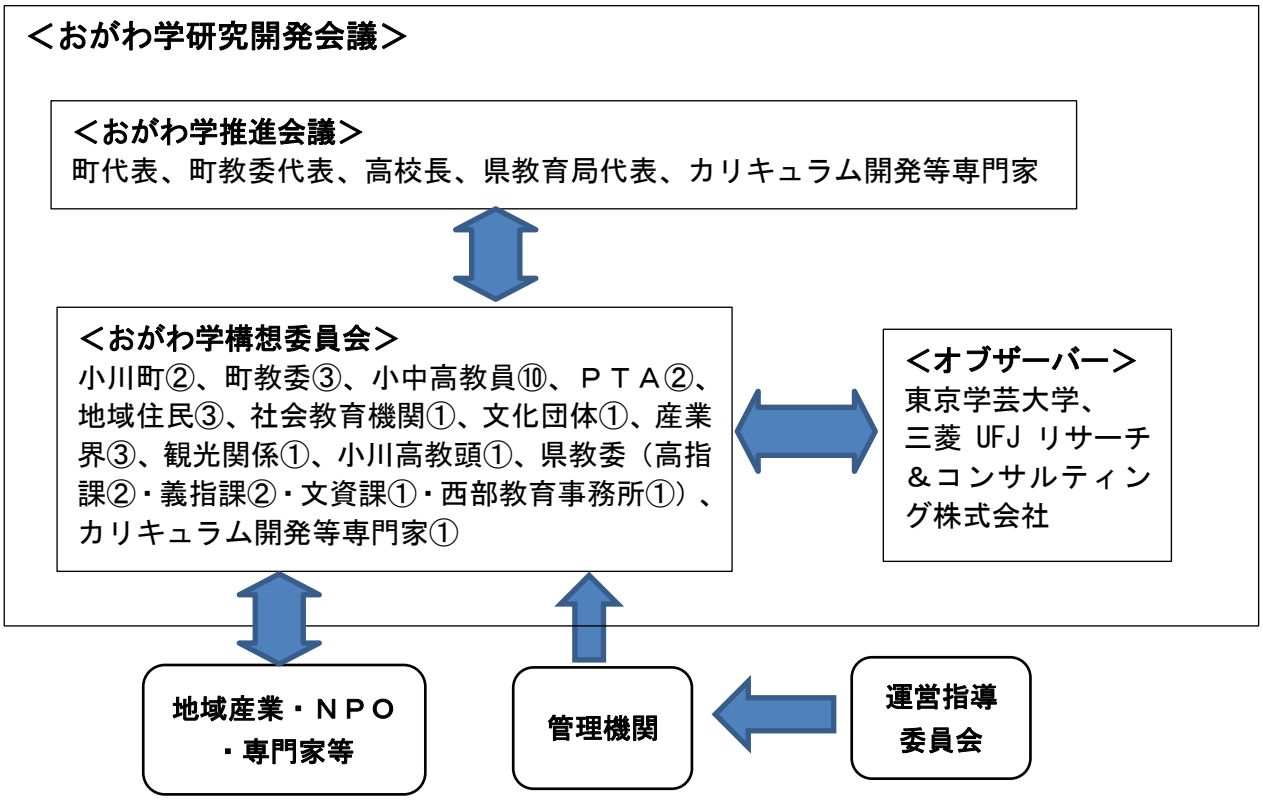
イ　幅広い知識と教養、豊かな情緒と道徳心、健やかな体、伝統や文化や我が国と郷土を愛する態度

ウ　子供たちだけではなく大人も学びを通じて可能性を最大限に伸ばし、一人一人が生涯にわたって活躍できる力

上記に掲げる人材像を基礎とし、おがわ学構想委員会（コンソーシアム）において、最初に

すべての委員が、学校の状況、小川町の状況、町の諸計画、埼玉県の状況、諸計画、国の施策などを踏まえながら地域への理解を深め、教育の課題や制度などを知り、共有する。委員自身がしっかりと学び、委員会において求める人材像について委員相互に議論し、求める人材像を固め共有する。

（３）コンソーシアムにおける研究開発体制



（４）カリキュラム開発等専門家（地域魅力化型・プロフェッショナル型）、海外交流アドバイザー（グローカル型）の指定及び配置計画

埼玉県教育委員会の非常勤職員として週４日間（２９時間）、小川高校で勤務（うち３日（２１時間４５分）はカリキュラム開発等専門家として勤務）。

（５）地域協働学習実施支援員の指定及び配置計画

埼玉県教育委員会の非常勤職員として週４日間（２９時間）、小川高校で勤務（うち１日（７時間１５分）は地域協働学習実施支援員として勤務）。

（６）運営指導委員会の体制

専門的見地を踏まえ、本事業の運営等に関する指導助言をいただく。

ア　有　識　者　立教大学コミュニティ福祉学部教授　空閑　厚樹　氏
イ　産　業　界　株式会社キャリアリンク代表取締役　若江　真紀　氏
ウ　先　進　県　島根県立高校教諭（埼玉県立浦和高等学校教諭　竹田　育子　氏）
エ　教育関係者　埼玉県教育局西部教育事務所長　浅沼　俊英　氏
オ　地 域 振 興　埼玉県企画財政部地域振興センター東松山事務所長　森　孝　氏

（７）研究成果報告・事業成果の検証に向けた計画

〇研究成果報告

ア　学校地域 WIN-WIN プロジェクトフォーラム（埼玉県教育委員会事業）における報告
　　公立学校教職員、行政担当者、ＮＰＯ、企業等参加予定

イ　事業報告書の作成

県内外の学校、関係する団体や企業、ＮＰＯなどに配布

〇事業成果の研修

ア　評価ツールの活用

・三菱 UFJ リサーチ＆コンサルティング株式会社の「地域魅力化評価システム」を活用

・小川町の特色に応じた評価項目や評価方法について検討

イ　埼玉県学力学習状況調査の活用

地域の課題解決に向けた探究的学習が子供たちの学習意欲やコミュニケーション能力等にどのように影響するかなどについて検証

ウ　関係者に対する聞き取り調査

町の行政・社会教育担当者、保護者、住民等に対する聞き取り調査を行い成果と課題を明らかにする。

（８）管理機関又はコンソーシアムによる主体的な取組・支援

〇担当課

事業全般　市町村支援部生涯学習推進課（地域連携担当）

指導助言　県立学校部高校教育指導課（教育課程担当）、市町村支援部義務教育指導課（教育課程担当）、西部教育事務所

〇取組・支援

運営指導委員会の助言を受けながら、管理機関としてのリーダーシップを発揮し、専門的な見地から随時支援を行う。

（９）事業終了後の継続的な取組の実施に向けた計画

「おがわ学」はこの事業の完成をもって終了ではなく、児童生徒や町の状況踏まえ、さらに改訂していくことが必要である。

またこの事業が、県立高校を核にした、地域と学校の連携のモデル事業（地域学校協働活動のモデル事業）であることから、継続して小川町・小川高校の取組を支援していくとともに、本事業の成果と課題をしっかりと他の市町村や学校に伝え、連携事例の新規開拓に努める。

２０１９年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 研究開発の概要

<table>
<tr><td rowspan="2">指定期間</td><td>ふりがな</td><td colspan="3">さいたまけんりつおがわこうとうがっこう</td><td rowspan="2">②所在都道府県</td><td rowspan="2">埼玉県</td></tr>
<tr><td>2019～2021</td><td>①学校名</td><td colspan="3">埼玉県立小川高等学校</td></tr>
<tr><td rowspan="3">③対象学科名</td><td colspan="5">④対象とする生徒数</td><td colspan="2">⑤学校全体の規模</td></tr>
<tr><td>１年</td><td>２年</td><td>３年</td><td>４年</td><td>計</td><td colspan="2" rowspan="3">普通課１学年あたり　普通クラス４クラス、進学選抜クラス１クラス　計５クラス　男子 324 名　女子 261 名　計 585 名</td></tr>
<tr><td>普通科</td><td>196 人</td><td>193 人</td><td>196 人</td><td>－</td><td>585 人</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>⑥研究開発構想名</td><td colspan="7">「おがわ学の構築・実践」学校と地域の未来を創ろう！プロジェクト</td></tr>
<tr><td>⑦研究開発の概要</td><td colspan="7">小川町の小中学校、県立小川高等学校の児童生徒が、発達段階に応じて地域の文化や歴史、産業等を学び、地域へ参画し、地域課題の解決に取り組む学びである「おがわ学」を構築し、総合的な探究の時間や各教科の中で横断的に活用していく。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">⑧研究開発の内容等</td><td>⑧-1全体</td><td colspan="6">(1) 目的・目標
社会が加速度的に変化し、予測困難な時代を生き抜くため、生きた教材である「地域の人的・物的資源」を活用し、社会からの学びを通して生徒の主体性や地域が抱える課題についての理解を深め、課題解決力の向上を図るとともに、学校が地域の核となり地域を分厚く支える人材を育成する。
(2) 現状の分析と研究開発の仮説
小川町はユネスコ無形文化遺産である細川紙（の手すき和紙の技術）をはじめ、数多くの伝統文化や歴史遺産があり、古くからの歴史・文化が根付いている。これらを活用して地域の活性化を図ることは、地域の伝統校の存続と深く関連するため、学校と地域が協働して小川町の創生に取り組む必要がある。当該研究開発を行うことにより、生徒の地域への愛着や地域貢献への意欲が湧くとともに、生徒の主体性や探究的な学びの力が向上し、地域課題の解決につながる。</td></tr>
<tr><td>⑧-2具体的内容</td><td colspan="6">(1) 地域との協働による探究的な学びを実現する学習の実施計画
○２０１９年度
・総合的な探究の時間・選択科目での「おがわ学」試験的実施
・学校内で構成される「地域連携委員会」及び「教育課程委員会」で「おがわ学」の導入検討
○２０２０年度
・各教科への「おがわ学」の導入内容の検討
・「おがわ学」の完成
・指導案の作成及び模範授業の実施、授業改善等の検証
○２０２１年度
・「おがわ学」の本格的実践
・「おがわ学」の内容更新等、継続的・発展的な取組の検討
(2) カリキュラム・マネジメントの推進体制
学校内で構成される「地域連携委員会」及び「教育課程委員会」において、「おがわ学構想委員会（コンソーシアム）」の調査・検討結果を基にカリキュラムの構築にあたる。
(3) 必要となる教育課程の特例等
教育課程の特例の活用なし</td></tr>
<tr><td colspan="2">⑨その他特記事項</td><td colspan="6"></td></tr>
</table>